

<今日の説教のポイント ヨハネによる福音書1節1～18節>

1 ヨハネ福音書の1～18節は何か？ 言いたいことを最初に宣言。

ヨハネによる福音書の出だしは変わっています。ヨハネはここで、これから一体何が言いたいのかを宣言しているのです。すなわち、イエス・キリストこそ、神様をご自分を知らせるために遣わされた方であり、この方による以外に神様を知る方法はない、ということです。

2 旧約聖書の創世記1章を明らかに意識して書いている！

まず出だしが変わっています。「初めに言があった」。「なんだこれは」と思われますが、ヨハネは旧約聖書の出だしを意識して書いているのです。「初めに、神は天地を創造された。…神は言われた。『光あれ』。こうして、光があった」。創世記では、神様が言葉を語られるとそれがあった（造られた）と綴られていく、つまり、ヨハネは、イエス・キリストこそがこの神の言葉（言）であり、神様の新しい創造の出来事がイエス・キリストで始まったのだと言っているのです。

3 ここに注目 1 「あった」から「来た」への変化。

二つの点に注目しておきたいと思います。まず一つは、言が神と共に「あった」から、世に「来た」に変化している点です。聖書は神の言葉であるということは、そこに記されていることは神様が言われている大事なこととして、その意味を正しく深く理解し受け入れることが大切です。だとすると、神様で「あった」イエス様（1-3節の内容）がこの世に「来て下さった」（9,11節）ということが、ここで言われている大事なことの一つ目です。

4 ここに注目 2 「命」と「光」の強調 — ここに救いあり！

注目したい二つ目は、「命」と「光」という表現が繰り返し用いられており、これはヨハネによる福音書全体で言えることだということです。「わたしは世の光である。私に従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」（8:12。3:16-21, 36も参照）。暗闇の中では危なくて立って歩くことはできません。光がそこに差し込んだならその光に導かれて自分の足で立って歩くことができるようになります。神様が「これに導かれて歩きなさい」と与えて下さった「光」がイエス・キリストであり、その光に導かれて生きる時に私たちは本当に神様からいただいた「命」を生きることができるのです（エゼキエル書37章10節）。